Cisco Umbrella Roamingクライアントプローブについて

内容

はじめに

このドキュメントでは、Umbrellaローミングクライアントがネットワークと接続の変更を監視するために使用するヘルスチェックについて説明します。

背景説明

Cisco Umbrellaローミングクライアントは、比較的積極的なヘルスチェックを実行して、ネットワークとDNS接続の変化を監視します。これにより、Umbrellaローミングクライアントは、動的なネットワーク環境で可能な限りシームレスなエクスペリエンスを提供できます。

ルータ/ファイアウォールのログで、多くのパケットがdebug.opendns.comに送信されていることがわかります。これは、DNS接続に関する特定の特性、および特定のプロトコルとポートで接続が可能かどうかを判別するためにUmbrellaローミングクライアントによって使用されるドメインです。詳細については、「Roaming Clientの前提条件」を参照してください。

プローブの詳細(debug.opendns.com)

これらのヘルスチェックは「プローブ」と呼ばれます。 次のプローブは10秒ごとに実行されます。

- 仮想アプライアンスプローブ（アクティブなネットワークアダプターで指定された各DNSサーバー用）
- 保護されたネットワークプローブ（アクティブなネットワークアダプターで指定された各DNSサーバー用）
- 暗号化されたプローブ
- 透明プローブ

一般的なネットワークでは、DHCPによって提供される2台のDNSサーバを使用して、Umbrellaローミングクライアントは1時間あたり2160個のプローブを送信します。

パケットが非常に小さく、オーバーヘッドが非常に低いUDPプロトコルを使用しているため、Umbrellaのローミングクライアントプローブによって生成されるトラフィックは比較的小さく、UDPとDNSに関しては1日の作業ですべて行われます。

単一のネットワークで数百または数千のUmbrellaローミングクライアントを実行している場合は、ネットワーク上のUDPタイムアウトが約10 ~ 15秒であることを確認することをお勧めします。一部のネットワークでは、30 ~ 60以上のUDPタイムアウトが採用されています。これは、UDPパケットのホストと宛先の間で通常予想されるよりもはるかに高くなります。

詳細については、サポートにお問い合わせください。

翻訳について
シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。